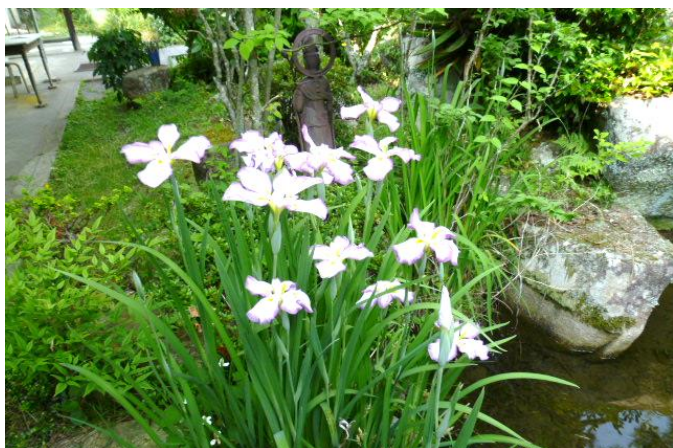


2022. 6 月のブルーベリー農園その 3

東広島市豊栄町で 21 年前から松枯れした山と、休耕田からの転作でブルーベリーを植えて以来、栽培のために週末農業で安芸区の自宅から通っている。そして収穫されたブルーベリーは安芸の郷と提

携して毎年夏の期間に納品している。いまでいう農家と社会福祉法人の農福連携を続けていることになる。6 月 18 日の農園では空の半分が青空で半分が雲に覆われている。そして、遠くの方で雷の音がごろごろと聞こえる。ホトトギスの鳴き声も混じる。そろそろ早生のブルーベリーの実の収穫も始まった。ブルーベリーの早生の剪定があと数本残っているが、農園の草刈にも追われている。



6 月 18 日 (土)
農園につくと家の池にショウブが満開になっている。



ネットの中のブルーベリーはまだ数粒しか色づいていない。ダローという品種で大きいのは 10 円玉くらいになっている。



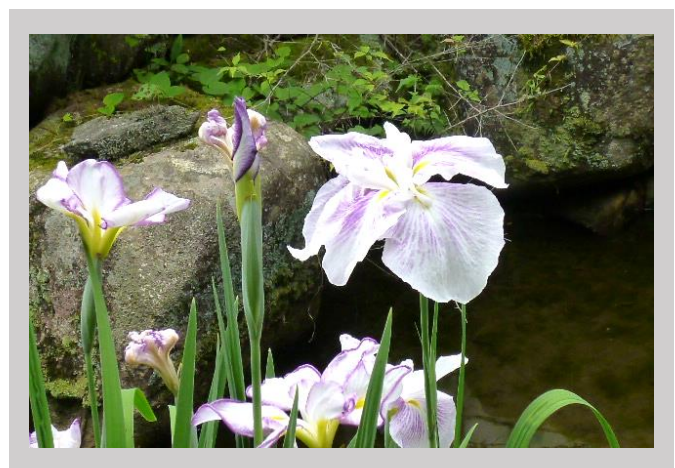
雑用がいろいろあって農園には 3 時前についたが、取り急ぎ畑の一部に早生のブルーベリーを育てているので防鳥ネットを張る作業をした。あらかじめ柱や支持線の整備をしていたので順調にネットを張れた。



先週防鳥ネットを張った里山の早生のブルーベリー園に入ってちょっとだけ摘み取りをした。2 キロ弱あり、自家消費でいただくことに。



防鳥ネットを張った場所の法面に夏の花、ルドベキアが一輪咲いていた。





6月19日(日)

この日も雑用がいろいろあって朝早く農園に行き、昼前には農作業を終わって帰宅。帰る道の農家の畑に咲くタチアオイ。見上げる位置なのでぱっと目に飛び込んでくる。



防草シートを列の真ん中に寄せてから草を刈る。お盆までもつか？



6月20日(月)

農園に行く途中の高屋町造賀のナスビ畑。無人の野菜売り場のそばにあるので買うときいつもこの畑を見物する。プロが作るのだから早く大きくなるし、支柱もしっかり整備されている。



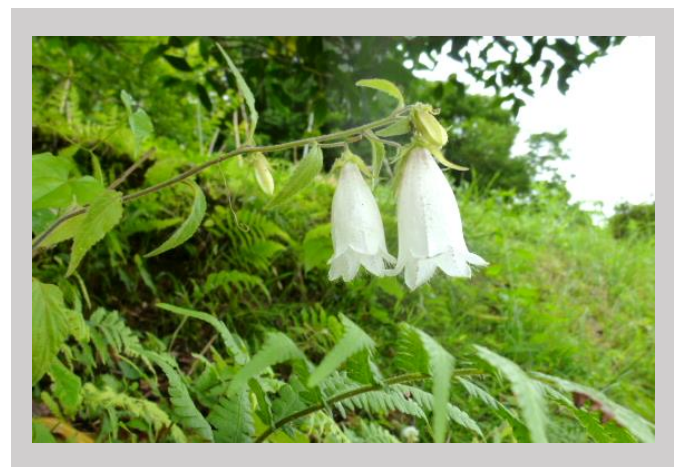
農園の小さな畑に行く里道の法面にホタルブクロが1~2株ある。白色なのでよく目立つ。

縁側で一休みしていると、ヒヨドリが2羽花壇の菜菔(グミ、ブイブイともいう)実を食べに来た。すこし甘味が増したので、次に来たときはもう実がなくなっているかも知れない。



ブルーベリー畑の草が伸びに伸びている。7月下旬から摘み取りで多くの人があるので畑の草刈りを行う。

2022年6月23日
社会福祉法人安芸の郷
理事長 遊川和良



《2022年5月23日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しなおしています》